

南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書

特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1993・3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書

特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1993・3

財高知県文化財団埋蔵文化財センター



雀ヶ森城跡



広岡井筋

序

吾川郡春野町は、高知県の中央部に位置し、靈峰石鎧山に源を発し太平洋へと続く仁淀川の河口の東岸に、豊かな水量により育まれた肥沃な地に恵まれ「土佐のデンマーク」と称される優れた農業地帯となっています。

町内には縄文時代から中世まで、西分増井遺跡・山根遺跡・西畠フケ遺跡・大寺庵寺・吉良城跡・芳原城跡をはじめとする多くの遺跡が所在しております、これまでも関係機関の理解のもと、多くの発掘調査が行われてきました。また、野中兼山による弘岡井筋や、南学発祥の地など多くの歴史を持つ町です。

このような春野町においても近年開発の波は押し寄せており、町内に所在する埋蔵文化財についても開発との調和の中で保護・保存を進めていかなければなりません。南浦遺跡は記録保存として発掘調査が実施されました。その結果、新たな資料をすることができました。この地に、今の人間のために役立つ施設が設けられ、そこでは、古くより、人間の生活が営まれていたということを心に思う機会をお持ちいただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の発掘調査を実施するにあたり、御援助、御協力をいただいた関係者の皆様及び地元の方々に厚く御礼申し上げます。

1993年3月

財團法人 高知県文化財・洲原戯文化財センター

所長 小橋一民

例　　言

1. 本書は、特別養護老人ホーム建設に伴い、工事計画用地内に所在する埋蔵文化財の記録保存を目的として行った、南浦遺跡発掘調査の記録である。

2. 所在地 高知県吾川郡春野町東諸木2040番地

3. 調査面積 690m²

4. 調査期間は、平成4年4月14日～6月19日である。

5. 発掘調査は、春野町の委託を受けて、財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。

6. 調査体制

　　務　三浦康寛（埋蔵文化財センター主事）

　　発掘調査　江戸秀輝（埋蔵文化財センター調査員）

7. 本書の執筆・編集等は江戸が行った。

8. 発掘調査にあたっては、調査区の設定及び遺構の測量については、地形にあわせた任意の4mグリッドを用いて実施した。標高は、海拔高を示した。

9. 調査にあたっては、高知県教育委員会・春野町教育委員会・地元関係者の方々に全面的な協力をいただいた。また、発掘調査及び報告書作成の際には、埋蔵文化財センターの諸氏から協力、貴重な助言をいただいた。また現場作業及び整理作業では下記の方々に協力していただいた。記して感謝する次第である。

（発掘調査）

　　岡田稔夫　加志崎悦子　国沢喜代子　松本明美　山本徳一　吉川正道

（整理作業）

　　小松経子　松木富子　矢野雅　山本裕美子

10. 出土遺物は、高知県文化財団埋蔵文化財センターにおいて保管している。

本文目次

巻頭カラー

序

例言、報告書要約

目次（本文目次／博図目次／写真図版目次）

第Ⅰ章　遺跡周辺の地理的・歴史的環境	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	1
第Ⅱ章　調査に至る経過及び調査の方法	4
1 調査に至る経過	4
2 調査の方法	5
第Ⅲ章　調査の成果	7
1 基本層序	7
2 検出遺構と遺物	15
第Ⅳ章　考察	23

挿図目次

第1図：吾川郡春野町位置図	1
第2図：南浦遺跡周辺の遺跡	2
第3図：南浦遺跡調査区位置図	6
第4図：TR2遺構平面図・東壁土層断面図	8
第5図：TR1遺構平面図	9
第6図：TR1南壁土層断面図	9
第7図：C区（TR3～TR7）遺構平面図・土層断面図	11
第8図：A区遺構平面図	13
第9図：SD1（A-B）土層断面図	16
第10図：SD1（C-D）土層断面図	16
第11図：SD1（E-F）土層断面図	16
第12図：SD1（G-H）土層断面図	16
第13図：SD1-1（I-J）土層断面図	18
第14図：SD1-2（K-L）土層断面図	18
第15図：SD1-3（M-N）土層断面図	18
第16図：SD1-4（O-P）土層断面図	18
第17図：SD1-5（Q-R）土層断面図	18
第18図：A区遺構断面・遺物出土図	20
第19図：A区遺物出土位置図	21
第20図：出土遺物実測図	27
第21図：出土遺物実測図	28

写真図版目次

巻頭図版：雀ヶ森城跡・弘岡井筋

P L 1：調査区全景（南東より）・調査前全景と雀ヶ森城跡（南より）

P L 2：TR 2 完掘状況（南西より）・TR 1 完掘状況

P L 3：TR 7 検出状況・TR 6 検出状況

P L 4：遺物出土状況（11・SD 1-3～4間）・（8・SD 1-2）

P L 5：遺物出土状況（6・SD 1）・（10・SD 1-3）

P L 6：土層断面（SD 1・A-B）・（SD 1・E-F）

P L 7：SD 1とSD 1-1～SD 1-4（西より）・SD 1北岸（南より）

P L 8：調査区 A 区全景（東より）・SD 1（北西より）

P L 9：SD 1 出土遺物・土師器坏（1・3～6・26）、須恵器碗（7）

SD 1-4 出土遺物・土師器坏（2）

P L 10：SD 1-2 出土遺物・土師器碗（8）、SD 1-1 出土遺物・土師器高坏（9）

SD 1-3 出土遺物・土師器高坏（10）

SD 1-3 と 1-4 間出土遺物・土師器高坏（11）、土師器臺（12）

P L 11：SD 1 出土遺物・弥生土器臺（13）、SD 1 出土遺物・土師器壺（27）

P L 12：出土遺物・陶磁器（15～22・24）内面外面

P L 13：出土遺物・土製錘（14）、出土遺物・陶器鉢輪碗（23）

出土遺物・備前雷鉢（25）

報告書要約

- 1 遺跡名 南浦遺跡 遺跡番号 340056
遺跡地図 No.23-12 (上佐・呑川ブロック)
- 2 所在地 高知県吾川郡春野町東諸木字南浦2040番地
- 3 立 地 新川川東側の低地・雀ヶ森城跡（独立丘陵）の南西側
- 4 種 類 弥生時代～近世 集落の一部
- 5 調査主体 (財) 高知県文化財团 埋蔵文化財センター
- 6 調査経緯 特別養護老人ホーム・ディサービスセンター建設工事
- 7 調査期間 平成4年4月14日～6月19日
- 8 調査面積 690m²
- 9 検出遺構 溝状遺構 6条、ピット31個、集石遺構 1基、石列 2条
- 10 出土遺物 弥生土器、土師器、須恵器、染付、その他の陶磁器
- 11 内容要約 南浦遺跡は春野町の南東部に位置する弥生時代から近世にかけての集落の一部であり、北東側には隣接して、雀ヶ森城跡のある独立丘陵が位置する。調査の結果、弥生時代の流路・古墳時代から中世の溝状遺構・柱穴・杭跡や近世以降の川岸の石垣跡と思われるものを検出した。弥生時代の流路からは弥生時代中期の壺が出土し、溝状遺構からは、古墳時代の土師器の高环・甕・碗などが、また、古代の土師器の壺・須恵器の碗などが、そして、中世の土師器の壺などが出土した。石垣跡の周辺からは近世の陶磁器が出土した。川の近くの遺跡だけあり、土錠の出土もあった。これらより、集落跡の中心は今回の調査区の東側の独立丘陵の斜面下部に広がっていたと考えられる。溝については、この標高約60mの丘陵を源とした水を利用するためのものであったのではなかろうか。また、古墳時代については、祭祀的な性格の可能性も考えられる。

第Ⅰ章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

春野町は、高知県の中央部、吾川郡の最南東部に位置する。南は上佐湾に面し、北から東は高知市、北西は伊野町、西は仁淀川を挟んで土佐市に接する。北部山地・中央低地・南部山地の3地区からなり、北部は西の吉良ヶ峰（249m）から東の鷲尾山（310m）まで比較的低位の山が連なる荒倉山系で、最高地は鳥帽子山（358.7m）である。南部には高森山（143.8m）などの丘陵がある。北部山地は中央を東西に走る仏像構造線によって北半は古生層、南半は中生層からなる。南部山地も中生層である。中央低地の東半は中生層の台地が広がり、西半は仁淀川およびその分流と新川川による土砂の堆積で形成された弘岡平野が開け、多くは自然堤防をなし、標高8～1mである。その弘岡平野の中央を新川川がほぼ東に流れている。土佐湾沿岸には平坦で直線的な砂浜が多い。この弘岡平野は仁淀川の堆積地というように肥沃な地で、とくに近世初期、野中兼山によって新田開発された地として知られる。これが基となって、大正期（1912～26）には優れた農業経営を行い「土佐のデンマーク」と称され、現在も県の代表的な農業地帯となっている。

そして、南浦遺跡のある東諸木は春野町の南東部に位置し、北は愛宕山で芳原・内の谷、東は唐音山で高知市長浜、西は西諸木・甲殿に接し、南は上佐湾に面する。北からの芳原川と西からの新川川は地内西縫で一旦合流し、再び甲殿川が南西方に分流する。新川川は長浜川となって地内南縫を流れ地内南音から高知市長浜、御景瀬へ流れ出る。弘岡平野に次ぐ広い耕地があり、種作とビニールハウス園芸作物を中心とする農業地帯である。

2. 歴史的環境

周辺の歴史的環境について、春野町を中心に見ていくと、まず、縄文時代～弥生時代については、秋山の山根などの自然堤防には、3,000年前の縄文後期から人々が生活していた。特に縄文時代の石錐の発見により、淡水網漁の存在が推定される。また、山根遺跡では、出土した弥生前期後半の土器の底部に認められた擦痕からこの地での米作の開始が鮮明になっ



第1図 春野町位置



No.	地名	備 記	地名		
1	水場裏野	古河～古河	34	小野原野	古河～古河
2	ダ・森野	小井	35	森ノ山武跡	新井野
3	大・森野	新井野	36	ノノ原跡	新井野
4	アケ通野	新井野	37	森ノ原野	新井野
5	大屋敷野	新井野～古河	38	大屋敷野	新井野
6	西側通野	新井野	39	西側二ノ通野	新井野
7	北側通野	新井野	40	北側三ノ通野	新井野
8	東側通野	新井野	41	東側四ノ通野	新井野～中井
9	ソリ・森野	古河～中井	42	森ノ通野	新井野
10	久保田・森野	新井野	43	森ノ森内／解説	新井野
11	西・森野	古河	44	万葉古墳跡	新井野
12	森之森野	新井野	45	古河城跡	新井野
13	東・森野	新井野	46	御宿跡	新井野
14	北・森野	古河～中井	47	千代野	新井野～中井
15	北洋通野	中井	48	大利根沼	新井野
16	元町通野	新井野	49	森ノ森野	新井野
17	中町通野	新井野～中井	50	森ノ山野	古河
18	安政通野	古河	51	六方通野	新井野
19	丁・森野	新井野～古河	52	七井行原野	新井野
20	小鳥通野	新井野	53	木下通野	新井野
21	木下通野	新井野～古河	54	木下通野	新井野
22	井谷通野	新井野	55	木下通野	古河～中井
23	大谷通野	新井野～古河	56	木ノ原北之跡	新井野
24	木見通野	古河	57	木ノ原南通野	新井野
25	船・森通野	小井	58	木ノ原通野	新井野
26	八千子・森通野	新井野	59	内山行原野	新井野
27	大分子・森通野	古河～古河	60	内山中井通野	古河
28	内山通野	古河	61	内山中井通野	古河
29	内山通野	古河	62	内山通野	古河
30	内山通野	古河～中井	63	シナカ茂通野	新井野
31	山根通野	古河～中井	64	シラクニ通野	新井野
32	奥根通野	古河～中井	65	森通野	古井
33	奥山通野	小井			

No.	地名	備 記	地名		
34	小野原野	古河～古河	35	森新野	中井
35	森ノ山武跡	新井野	36	新井野	新井野～中井
36	ノノ原跡	新井野	37	新井野	中井
37	森ノ原野	新井野	38	大屋敷野	中井
38	大屋敷野	新井野	39	西側二ノ通野	中井～中井
40	西側三ノ通野	新井野	41	西側四ノ通野	中井～中井
41	西側五ノ通野	新井野	42	森ノ通野	新井野
42	森ノ森内	新井野	43	森ノ通野	新井野
43	森ノ森内／解説	新井野	44	万葉古墳跡	新井野
44	古河城跡	新井野	45	古河城跡	中井
45	御宿跡	新井野	46	千代野	新井野～中井
46	大利根沼	新井野	47	大利根沼	新井野～中井
47	森ノ森野	新井野	48	森ノ山野	古河
48	森ノ山野	古河	49	六方通野	新井野
49	六方通野	新井野	50	七井行原野	新井野
50	木下通野	新井野	51	木下通野	新井野
51	木下通野	新井野	52	木下通野	新井野
52	木下通野	古河～中井	53	木下通野	新井野
53	木下通野	新井野	54	木下通野	新井野
54	木ノ原北之跡	新井野	55	木ノ原南通野	新井野
55	木ノ原南通野	新井野	56	木ノ原通野	新井野
56	木ノ原通野	新井野	57	内山行原野	新井野
57	内山中井通野	古河	58	内山中井通野	古河
58	内山中井通野	古河	59	内山中井通野	古河
59	内山中井通野	古河	60	内山中井通野	古河
60	内山中井通野	古河	61	内山中井通野	古河
61	内山中井通野	古河	62	内山通野	古河
62	内山通野	古河	63	シナカ茂通野	新井野
63	シナカ茂通野	新井野	64	シラクニ通野	新井野
64	シラクニ通野	新井野	65	森通野	古井

第2図 南浦運動場周辺の道路

た。その後、西分増井遺跡などでも縄文時代後期からの多くの遺物・遺構が確認された。また、西郷ワケ遺跡からは銅矛2本が出土している。古墳時代の遺物が大量に出土した遺跡としては馬場末遺跡などがある。また、第二次大戦中亡失した古墳が弘岡中横手にあったが、そのほかには現在のところ古墳は発見されていない。

春野町西分には現在大寺の地名が残るが、ここからは奈良時代末の寺院瓦などが出土し、大寺庵寺はこの時代の建立と推定される。大寺庵寺は吉川郡唯一の古代の寺院遺跡であることから、当時の中心的地域であり、都衝関係の寺院とも考えられている。

春野町内の神社の多くは、いずれも自然堤防の一端あるいは扇状地付近の湧水地に位置し、古墳時代からこの時代にかけて、自然堤防や扇状地に集落が発達したことがうかがえる。そして、秋山にある種間寺については、村上天皇が藤原信家を勅使として遣わし、朱雀院の額を与えたのが、康保年間（964～68）のことであったという。創建の伝承は古いが、この頃から火をなしたものと考えられる。

南北朝時代に入り戦火は吉川郡下にも及び、吉良氏が守護領臣制下に弘岡中の吉良城を拠点とし、森山氏・木塚氏の3氏により春野町を領有した。戦国時代に入り吉良氏・木山氏・一条氏そして長宗我部氏らの抗争の場となる。木山氏が吉良氏を滅ぼした後、永禄3年（1560）から同6年の間に長宗我部氏と木山氏との争奪戦が行われた。この争奪戦に森山氏・木塚氏もついてに没落した。長宗我部元親は弟親貞に吉良氏を名乗らせ、吉川郡南部の押さえとした。戦国時代には中小豪族が興亡を繰り返しており、春野町の主要な城に、吉良城のほか、秋山城・雀ヶ森城・森山城・芳原城などがあった。この時期、南浦遺跡のある東諸木は、木塚氏が領有した喜津賀のうちで、永禄年中（1558～70）当地は長宗我部氏と木山氏との合戦の渦中にあり、当時元親は東諸木まで進出し、芳原以西は木山氏の支配下にあった。南浦遺跡に隣接する、諸木八幡宮の西方池上の、標高60m余の小山にある雀ヶ森城跡については、城主は木山氏の属将高橋壱岐守と伝えるのみで、築城年代などは不明。頂上に約500m²の本丸跡があり、西斜面がやや穢やかなほかは急崖である。

中世末期、吉川郡南部平野の開発は大いに進み、ヒノクチ・ヒノシリなどの地名からみて、小規模な灌漑設備が存在したと考えられる。

関ヶ原の戦い後、山内氏が入国し、中世以来の区画に変革が加えられ、新しい村が定められ庄屋が任命された。新しい村はすでに存在していた村落を近世村としたものであった。これらの村の中で大開発を実行したのが野中兼山である。兼山は仁淀川沿いの自然堤防の堆積に着手し、八田堰と弘岡井筋を根幹とし、これに仁淀川沿いの堤防を加え、寛安元年（1648）から承応元年（1652）の5年間をかけて完成した。この灌漑事業の成功によって吉川郡南部に510haの新水田が誕生した。また承応元年頃、森山村に新川町を建設し、ここで新村落とし、よって弘岡井筋を新川川に接続させ、仁淀川上流の物資を舟運によって城下町に送った。

〔参考文献〕出原忠三「西分増井遺跡群発掘調査報告書」春野町教育委員会 1990年

『春野町史』春野町 1976年

『高知県の地名』日本歴史地名系40巻 平凡社 1983年

『39高知県』角川日本地名大辞典 角川書店 1986年

第Ⅱ章 調査に至る経過及び調査の方法

1. 調査に至る経過

南浦遺跡は吾川郡春野町の南東部の東諸木に所在する遺跡で、中世城跡の雀ヶ森城跡のある独立丘陵の直下で、その小山と芳原川（南浦遺跡の南で新川川に合流する）に挟まれる形で、標高1～3m前後の低地の水田に立地している。事前に行われた試掘調査の中で、今回の本調査で確認された溝状遺構S D 1の南西よりの部分から古墳時代初頭の土師質の壺と中世の土師質の杯が出土し、遺構は、土坑、溝、柱穴などが検出されていた。そこで、今回、特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に伴う事前の調査ということで、建設予定地の中でも、試掘の際、遺構及び遺物の確認された部分を中心に、調査が必要と思われる690m²について本調査を実施することになった。

調査は、春野町より、高知県文化財団埋蔵文化財センターが委託を受け、平成4年4月14日から平成4年6月19日の期間で現場での発掘調査を実施した。



作業風景

2. 調査の方法

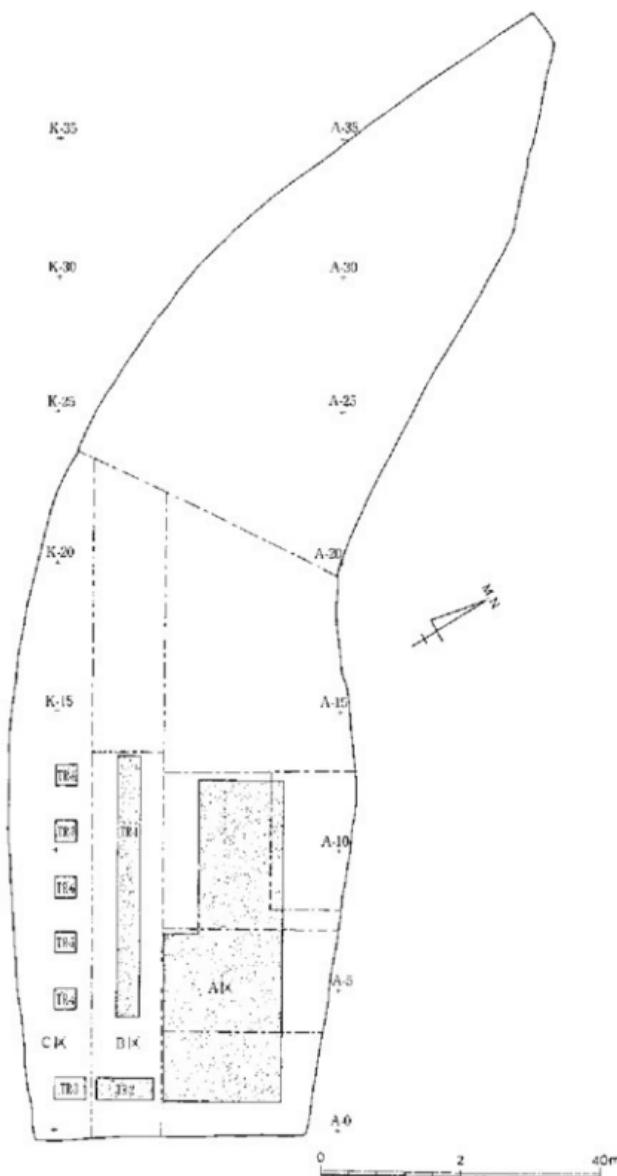
調査は、まず、建設予定地の簡単な測量を行い、調査区の中に一部、盛土をして樹木を植えている部分があったため、まず、樹木の撤出後、盛土の除去を行った。そして、調査区の元の地形（畦・段差・形状など）を考慮して調査区を設定した。調査区は雀ヶ森城跡より芳原川に向かって順に、A区・B区・C区とし、A区については、試掘で遺構・遺物の確認された場所ということもあり、全面の調査を行うこととし、B区・C区については、トレーンチによって確認しながら進めることにした。各調査区とも、まず、パワーショベルにより雑草の除去を行い、それぞれ掘削する場所の設定をした。試掘の際に遺構・遺物とも確認されなかった建設予定地の北西部についても発掘調査は行わないこととした。

A区については、地形に沿わす形で、試掘の位置を含めて、まず、南東半分について全面的に設定した。この範囲を確認した上で遺構の延長を調査する形で、残りの北西部の調査を実施した。

B区については、TR 1は調査区にあわして幅約4m・長さ約40mのトレーンチを設定し、TR 2はA区から南西方向に延長する形で幅約3m・長さ約8mのトレーンチを設定した。

C区については、TR 3はB区のTR 2同様に幅約3m・長さ約4mのトレーンチを、TR 4からTR 8については・辺約3mのトレーンチを調査区の地形に沿わして設定した。

いずれの調査区も、表上及び遺物包含層の上の無遺物層までパワーショベルにより掘り下げる。遺物包含層については人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出作業を実施する。検出された遺構は完掘し、完掘状況・土層・遺物出土状況などを1/20で実測し、写真撮影により記録に残す。測量のために調査区全体に4mグリッドを地形にあわせて任意の方向で設定、A～K・O～35を組み合ます。(同一数字ライン：例A-10とK-10から西へ31° 26' 40"が西北となる。)標高値は、雀ヶ森城跡北側の県道弘園下種崎線上の水準点を利用し、遺跡測量を行った。



第3回南浦遺跡調査区位置図

第Ⅲ章 調査の成果

1. 基本層序

A区については、現在の耕作土及び床土を掘削すると、直下の層で遺構を検出することができる。部分的に遺物包含層といえる土層も存在するが大部分は上で言った通りである。土層は上層から順に表現すると次のようになる。

A区 I : 耕作土 (灰褐色土)

II : 床土 (灰褐色土・橙色小礫含む、青灰色粘土の部分もあり)

III : 淡灰褐色粘質土

この淡灰褐色粘質土の段階で遺構を確認することができ、後世、耕作地として利用されていた段階で上部が削られていると考えられる。

B区については、TR 1 南壁土層断面図（第5図）とTR 2 東壁土層断面図（第6図）から知ることができる。TR 2 で測量した土層のうちI層・II層については、TR 1 ではさらに細かく分層している。また、部分的に土色の異なる場合もあった。

B区 TR 2 東壁上層 TR 1 南壁土層

I : 表土 (茶灰色土) I : 耕作土 (灰褐色土)

II : 床土 (灰褐色土・橙色小礫含む)

II : 淡灰褐色粘質土

III : 淡灰褐色粘質土

IV : 灰褐色粘質土

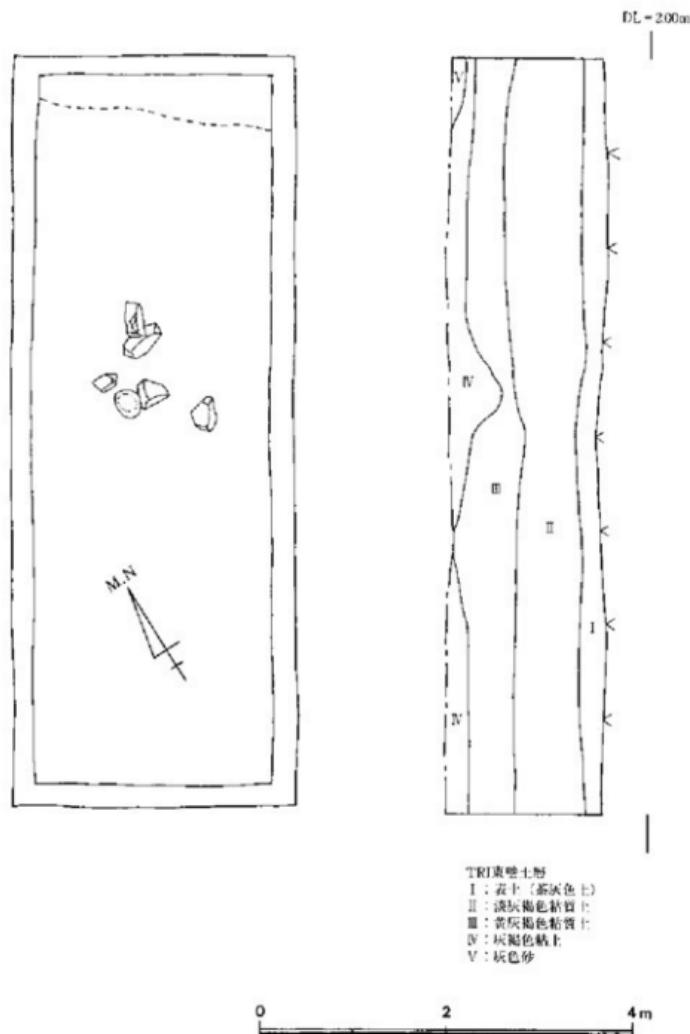
III : 黄灰褐色粘質土

V : 灰褐色粘土

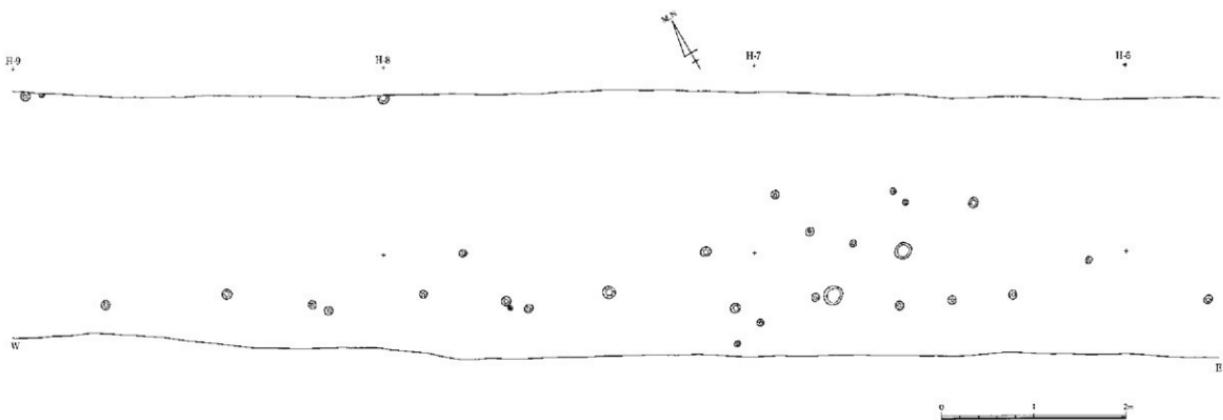
V : 灰色砂

TR 1 については第Ⅲ層で遺構を検出することができた。TR 2 については第4層直上で集石状のものを検出した。TR 2 の第Ⅰ層がTR 1 の第Ⅰ・Ⅱ層に対応する。TR 2 の第Ⅱ層はTR 1 の第Ⅲ・Ⅳ層に対応する。

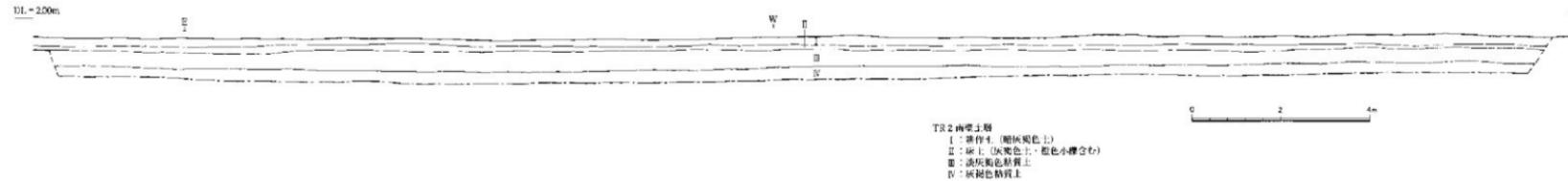
C区については、TR 3 南壁土層断面図及びTR 4 からTR 7 の土層断面図（第7図）から知ることができる。TR 3 南壁については第Ⅲ・Ⅳ・V層については川岸の石垣跡よりも川側の堆積によるもので、第VI・VII層については石垣跡よりも山側からの延長の土層である。そして、TR 4 からTR 7 の共通な土層断面図での第Ⅲ・Ⅳ・V・VI層については石垣跡より川側の堆積であり、第VII・VIII・VIX層については石垣跡より山側および石垣跡よりも下部の上層ということになる。



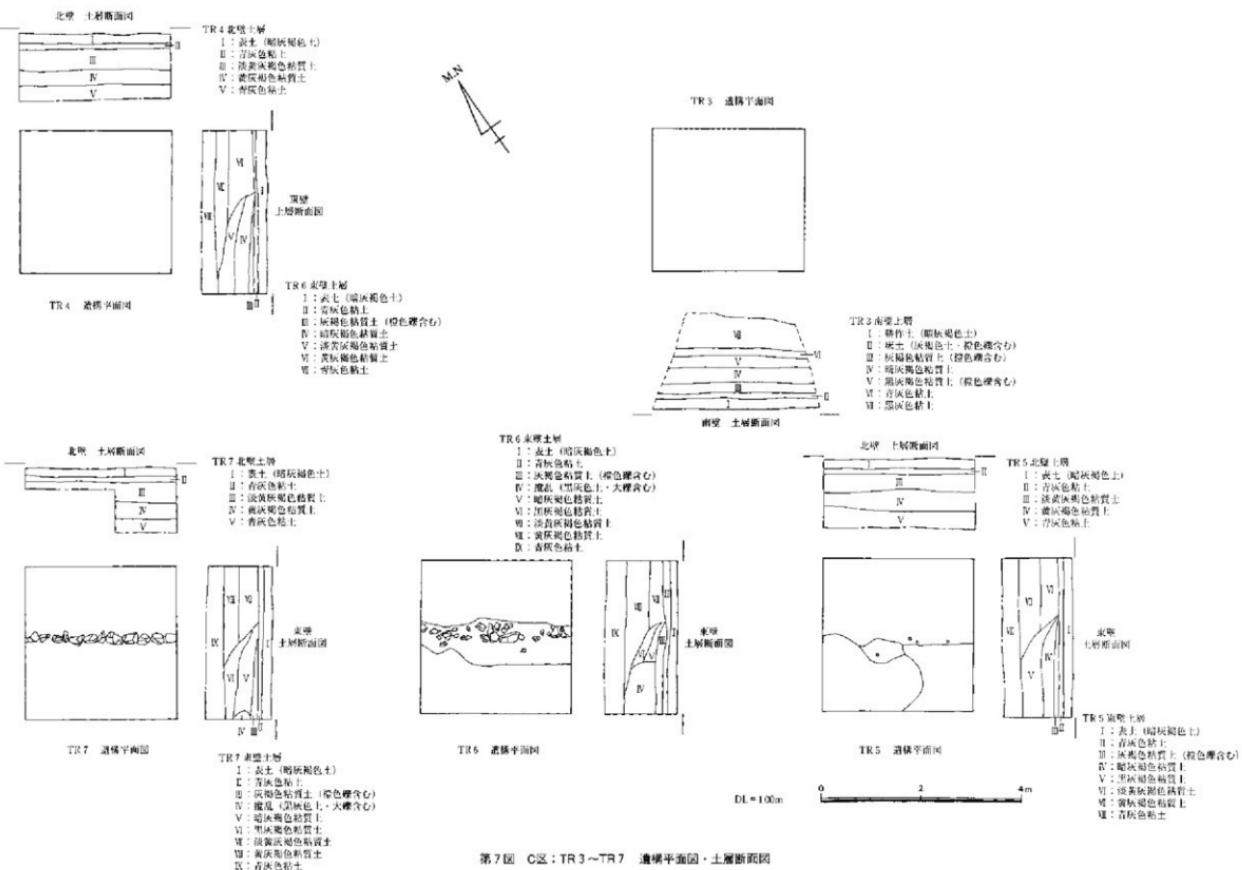
第4図 TR2 造構平面図・東壁 土層断面図



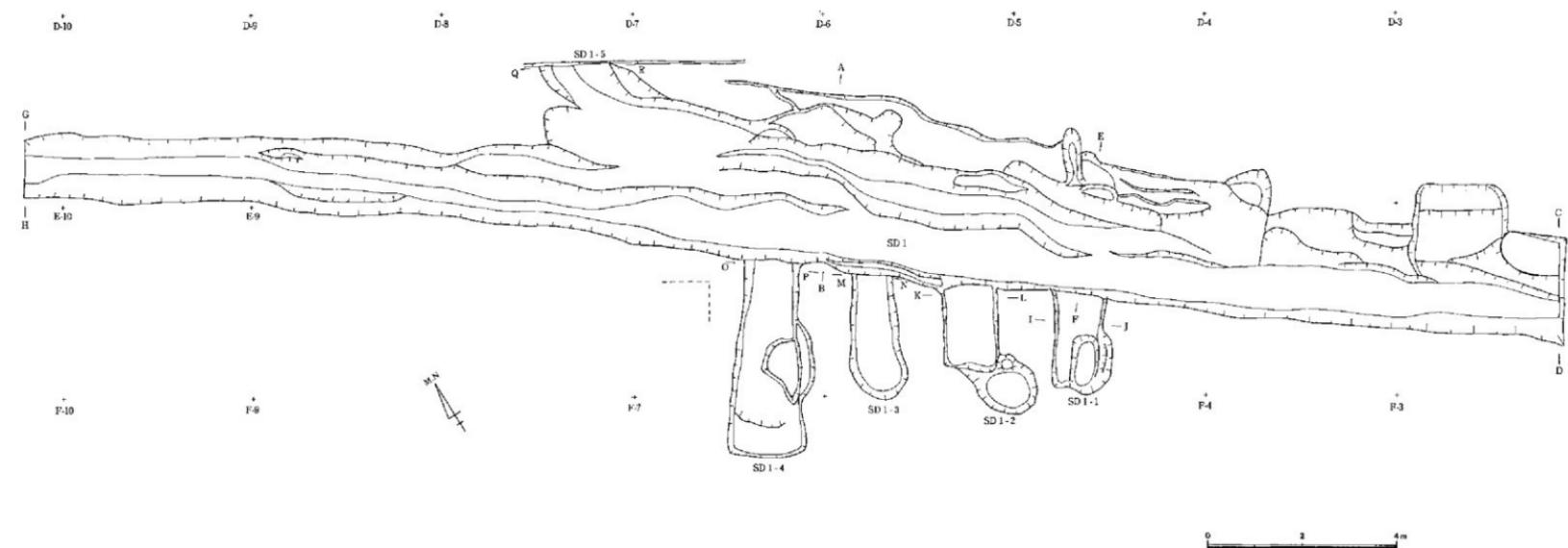
第5図 TR 1 遺構平面図



第6図 TR 1 南壁 土層断面図



第7図 C区: TR 3~TR 7 造構平面図・土層断面図



第8図 A区 調査平面図

C区 TR 3 南壁土層	TR 4 ~ TR 7 東壁土層
I : 耕作土 (暗灰褐色土)	I : 表土 (暗灰褐色土)
II : 売土 (灰褐色土・橙色譙含む)	II : 青灰色粘土
III : 灰褐色粘質土 (橙色譙含む)	III : 灰褐色粘質土 (橙色譙含む)
IV : 暗灰褐色粘質土	IV : 黑灰色土 (大礫含む)
V : 黑灰褐色粘質土 (橙色譙含む)	V : 暗灰褐色粘質土
	VI : 黑灰褐色粘質土
	VII : 淡黄灰褐色粘質土
	VIII : 費灰褐色粘質土
VI : 青灰色粘土	IX : 青灰色粘土
VII : 黑灰色粘土	

A区・B区・C区それぞれについては、これまでのその土地の用途や、水などの自然の諸条件により変化が見られ、必ずしも統一されているわけではない。

2. 検出遺構と遺物

(1) A区

①溝跡

S D 1

E - 10近くで幅140cm深さ80cmを測り、E - 6付近では幅360cm深さ70cmとなり、E - 5とE - 4の中間付近で幅300cm深さ90cmとなり、E - 2とF - 2の中間付近で幅230cm深さ90cmを測る。長さは約40mについて検出した。そのうち溝の左岸E - 3からE - 6にかけては、階段状に形成された部分を掉っている。溝の右岸はほとんどが垂直に近い形状である。また、S D 1に流れ込む形で、5条の溝跡 (S D 1 - 1 ~ 5) が存在する。S D 1の遺構埋土の土層については次の通りである。

第9図 (A - B)

- I : 暗灰褐色粘質土
- II : 暗灰褐色粘質土
- III : 黄灰褐色粘質土
- IV : 灰褐色粘質土
- V : 黑灰褐色粘質土
- VI : 淡灰褐色粘質土

第10図 (C - D)

- I : 淡茶色粘質土
- II : 茶灰褐色粘質土
- III : 暗褐色粘質土
- IV : 暗茶褐色粘質土
- V : 灰茶色シルト
- VI : 淡茶灰色粘質土
- VII : 淡灰褐色粘質土

第11図 (E - F)

- I : 茶灰色粘質土
- II : 暗灰褐色粘質土 (灰色粘土塊含む)
- III : 暗褐色粘質土
- IV : 淡茶色粘質土
- V : 黒灰褐色粘質土
- VI : 淡茶灰色粘質土
- VII : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

弥生時代中期前半の弥生土器：甕、古墳時代の土師器：甕、古代の土師器：壺、古代の須恵器：碗、中世の土師器：壺などが出土した。遺物の出土位置などは第18図・第19図に表している。

SD 1については、造構埋土の種類と、遺物の出土状況との関係から、造構の性格や機能時間などを考えることができる。

第12図 (G - H)

- I : 淡灰褐色粘質土
- II : 茶灰色粘質土
- III : 黑灰褐色粘質土
- IV : 淡灰褐色粘質土
- V : 暗灰褐色粘質土
- VI : 黄灰褐色粘質土
- VII : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

弥生時代中期前半の弥生土器：甕、古墳時代の土師器：甕、古代の土師器：壺、古代の須恵器：碗、中世の土師器：壺などが出土した。遺物の出土位置などは第18図・第19図に表している。

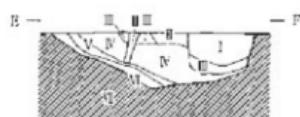
SD 1については、造構埋土の種類と、遺物の出土状況との関係から、造構の性格や機能時間などを考えることができる。



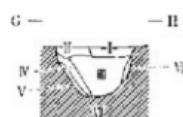
第9図



第10図



第11図



第12図

DL = 1.500m



SDI 土層断面図

SD 1 - 1

F - 4 と F - 5 の中間から始まり E - 4 と E - 5 、これら 4 点のほぼ中央部で SD 1 につながる。幅は 100cm から 140cm 深さは 30cm を測る。造構埋土の土層は次の通りである。

第13図 (I - J)

I : 暗灰褐色粘質土

II : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

古墳時代の土師器：高坏などが出土した。遺物の出土位置などは第18図・第19図に表している。

SD 1 - 2

F - 5 から始まり E - 6 方向に少し進み、E - 5 と F - 5 を結ぶラインに平行になる形に曲がり、E - 5 と F - 5 の中間近くで SD 1 につながる。幅は 140cm 深さは 40cm を測る。造構埋土の土層は次の通りである。

第14図 (K - L)

I : 暗灰褐色粘質土

II : 淡灰褐色粘質土

III : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

古墳時代の土師器：碗などが出土した。遺物の出土位置などは第18図・第19図に表している。

SD 1 - 3

F - 6 よりの F - 5 との中間から始まり E - 6 の方向に進み途中 SD 1 につながる。幅は 140cm から 100cm 深さは 30cm を測る。造構埋土の土層は次の通りである。

第15図 (M - N)

I : 暗灰褐色粘質土

II : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

古墳時代の土師器：高坏などが出土した。遺物の出土位置などは第18図・第19図に表している。

SD 1 - 4

F - 6 のやや G - 6 よりから始まり E - 6 近くで SD 1 につながる。幅は 180cm から 140cm 深さ 50cm を測る。造構埋土の上層は次の通りである。

第16図 (O - P)

I : 暗灰褐色粘質土

II : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

古墳時代の土師器・壺などが出土した。遺物の出土位置などは第18図・第19図に表している。

SD 1 - 5

D - 7 と D - 8 の中間近くから始まり E - 7 近くで SD 1 につながる。幅は約200cm深さは 90cmを測る。遺構埋土の土層は次の通りである。

第17図 (Q - R)

I : 耕作土 (灰色粘質土)

II : 扰乱 (大小礫・赤土混)

III : 黄茶灰色粘質土

IV : 明黄茶灰色粘質土

V : 灰茶色粘質土

VI : 暗褐色シルト

VII : 淡灰茶色シルト

VIII : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

遺物はあまり出土していない。



第13図 (SDI-1)



第14図 (SDI-2)

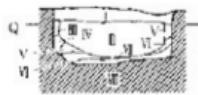


第15図 (SDI-3)



第16図 (SDI-4)

D = 1,500m



第17図 (SDI-5)

2m

SDI-1～SDI-5 土層断面図

(2)B区

①杭跡・柱穴

TR 1 の調査区の中で、I - 6 から I - 9 にかけて30個を検出した。ほとんどが、直径10cmから20cmで深さは15cmから30cmである。遺構平面図は第4図に、土層断面図は第5図に表している。

出土遺物

遺物はほとんど出土しておらず、土師器の破片と陶磁器の破片が出上している。

②性格不明

TR 2において30cmから50cm大の角礫が数個集中して検出されたが、性格は不明で、C区では石垣の跡と思われる遺構が検出されており、同様に石垣に利用されていた石かもしれないが、土層断面などにも、この場所ではそういう痕跡はない。遺構平面図及び土層断面図は第6図に表している。

出土遺物

遺物はほとんど出土していない。

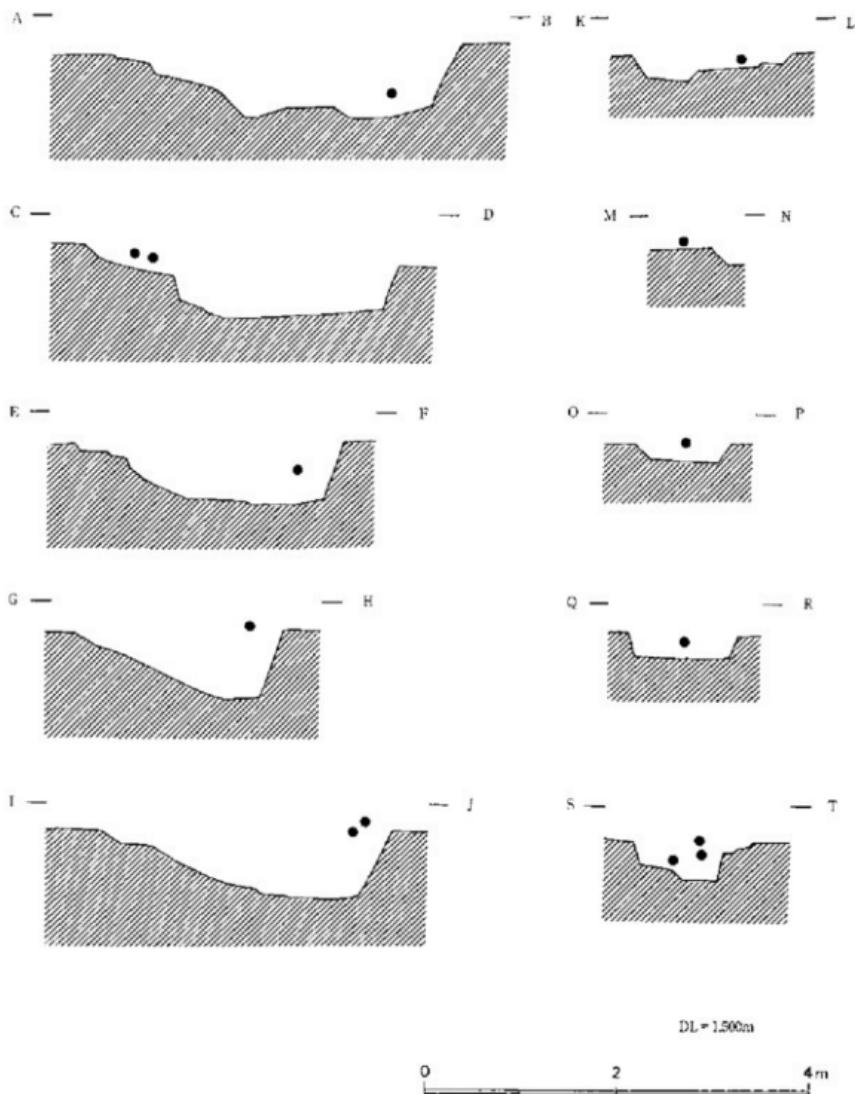
(3)C区

①石垣跡

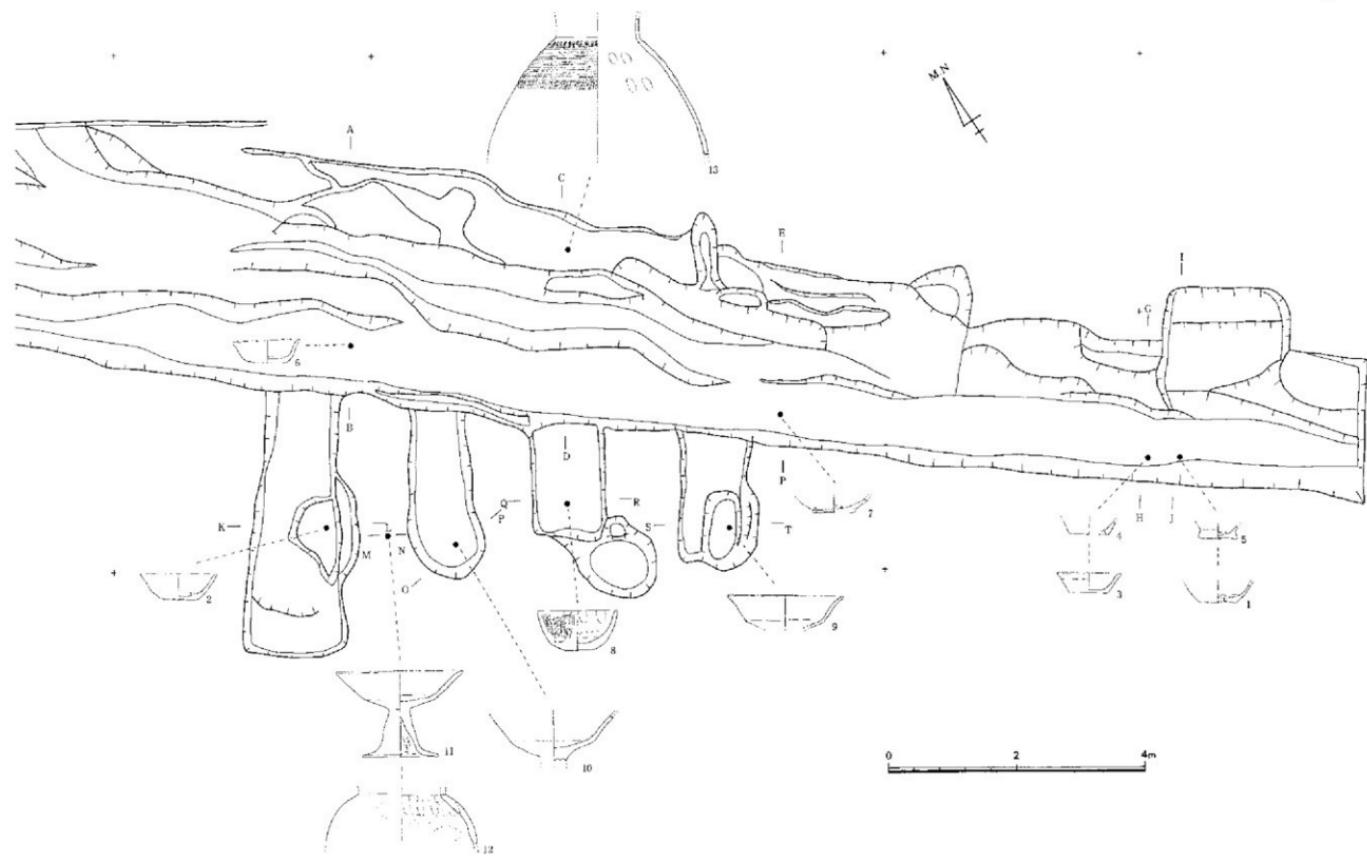
TR 3 から TR 7 まで、検出された石列及び土層断面図を見ると、J - 1 から J - 13 と K - 1 から K - 13 の中にあたる部分で、岸、石垣であったと判断できる遺構が検出され、中でも TR 6 と TR 7 については石垣による岸であったと判断できる要素となる石も検出されている。石の大きさは30cm前後のものが多く確認された。岸の傾斜はほぼ1 : 1で造られていたと思われる。これらは、現在の芳駒川とほぼ平行に並び、距離もほとんど離れていないことから、川岸の跡であると判断する。遺構平面図及び土層断面図は第7図に表している。

出土遺物

近世の陶磁器の破片や、時期はわからないが、土師器の破片などが出土した。



第18 A区 遺構断面・遺物出土図



第19図 A区 遺物出土位置図

第IV章 考 察

ここでは、今回の調査で検出された南浦遺跡の遺構・遺物と、これまで伝えられてきている歴史と見ていくことにより、南浦遺跡の存続していた時代と、それぞれの時代のこの遺跡の性格と周辺との関係を考えていきたいと思う。検出された遺構はSD1を中心とする溝跡と杭跡、樹列跡、そして石垣跡という、何時の時代においても人々の生活の中の片隅で目にすることの印象を受ける。

1. 南浦遺跡におけるそれぞれの時代とその性格

(1)弥生時代

今回の南浦遺跡の調査で確認した最も古い遺物はSD1で出土した弥生時代中期の器である。このSD1はこの後、古墳時代から中世まで登場するのだが、ここでは弥生時代に限って見てみると、溝跡というよりは自然流路といったほうが良いと思う。北側に位置する小山からの湧水をこの場所で汲み上げて利用していたのではないだろうか。そして、当時の集落の中心は、この小山の周囲の緩斜面に展開していたものと推測される。

(2)古墳時代

古墳時代に入るとSD1は自然流路から若干人間の手の加わったものに姿を変えつつある。この時代にはSD1本体ではなく、それに接続するSD1-1~4について考える要素が持たれてくる。これらの遺構からは、高壙などが、そこに置かれていたかのように出土しており、水辺の祭祀の可能性も考えてみても良いのではないだろうか。生活に欠かすことのできない水に対して、あるいは広い意味で水と生活との関わりに対して、ここでは、この時代にそういう行為が始まったのではないだろうか。そして、やはりこの時期も居住地の中心は弥生時代同様であろう。

(3)古代~中世

古代になってくるとSD1も自然流路ではなく人為的な溝に姿を変えてくる。このことは、遺物の出土状況と遺構堆土の堆積状況を検討することにより、弥生時代から古墳時代までは流路の岸も比較的緩やかで、自然の恵みとでも言えるようなものを、人により整えられた溝というものに姿を変えている。

そして、中世になりSD1は存続しているようであるが、その頃から周辺の社会情勢は徐々に姿を変えていき、水を患んでいた小山も戦国の砦へと変貌するのである。世の中の変化に平行し、小山の周辺の集落も侍の居住地へと移り変わって行った歴史が様々な資料からうかがえる。

おそらく、この小山：雀ヶ森城の周辺は、古来からの人々の居住地の外側は、低湿地や川そのものであったと考えられる。そのような状況下、戦国時代には、激しい戦いが展開した地という記録も残されているようである。

(4)近世

世の中も落ち着きを取り戻した近世、SD1は存在していなかったと推測されるが、それに変わり、川岸近くに構列石や石垣が登場てくる。この時代には、仁淀川に八田堰が造られ、弘岡井筋を通して豊かな水を利⽤できるようになったことにより、農業が発展し、また水路を利用した運送も盛んになってきている。このような世の中の変化により、南浦遺跡も、それに応じた変身をしているのである。この遺跡の近くには用水から続く新川川が流れ、間近にはそれに続く芳原川が流れている。

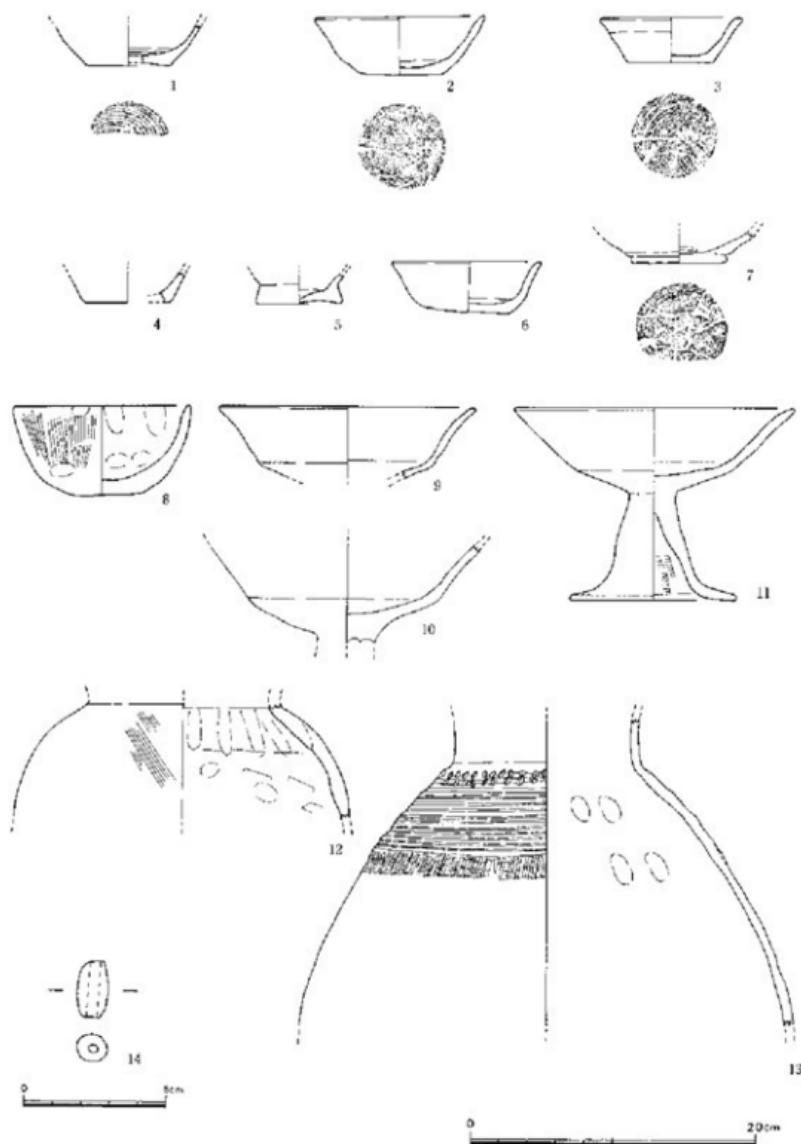
2. 時間の流れの中での南浦遺跡

弥生時代から近世に至る遺跡の性格の流れを見ることにより、南浦遺跡はSD1を中心にして、社会の変化、人間の生活の変化を物語っており、さらに、それだけではなく、人間の生活の中での、思い、心の移り変わりまでも教えてくれているような気がする。

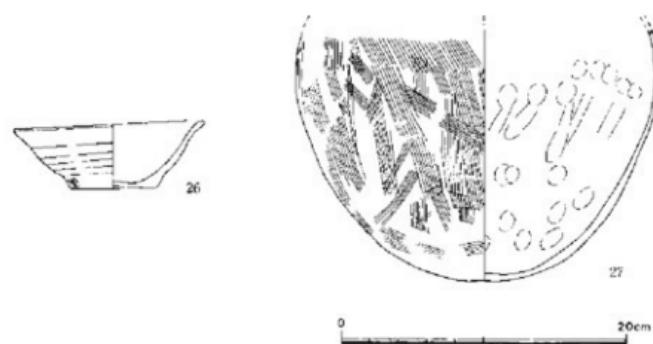
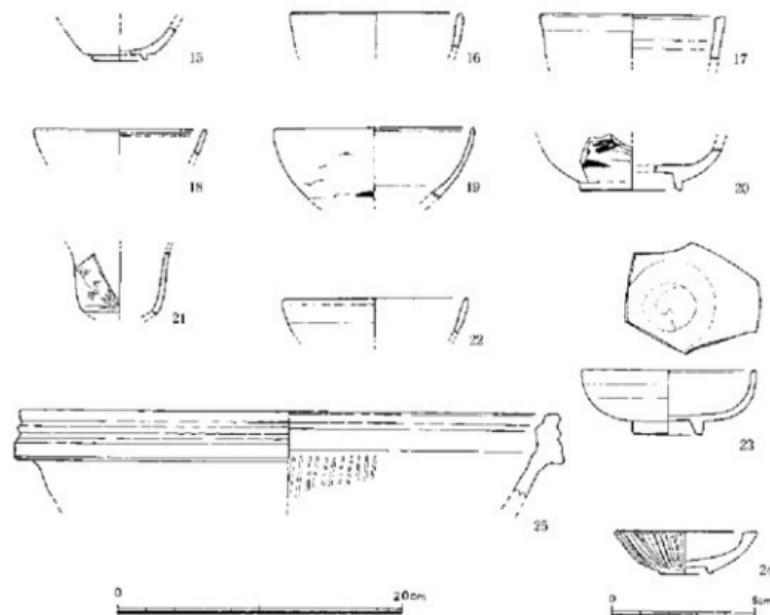
遺物・遺構の量ともにはんの少しきない遺跡ではあり、推測という部分が多くあるものであるが、それ故にこれまで述べることが可能であったのかもしれない。

番号 番号	直格番号	器種	法量 (cm)	上部 器高 側厚 底径	形態・文様	手 法	備 考
1	SD 1	土師器 环	— (2.7) — 6.0	内面はにぶい黄褐色。外面は浅黄褐色。 底部から、体部はやや丸味を持って立ち上がる。	底部は回転式切りである。内面はろくろ目を飛しナデ調整。外面はナデ調整。胎土は細かな砂粒を含む。焼成は良い。		
2	SD 1-4	土師器 环	11.7 4.6 — 6.0	内面は浅黄褐色。外面は浅黄褐色。底部 から、体部は内身ぎみにやや開いて立ち上がる。	底部は回転式切りである。内面はナ デ調整。外面はナデ調整。胎土は精 造され砂粒を少含む。焼成は良い。		
3	SD 1	土師器 环	10.0 3.9 — 6.0	内面は褐色。外面は褐色。体部はや や外反ぎみに立ち上がり、上部部が 外反する。	底部は回転式切りである。内面はナ デ調整。外面はナデ調整。胎土は精 造。焼成は良い。		
4	SD 1	土師器 环	— (2.0) — 6.0	内面はにぶい黄褐色。外面はにぶい黃 褐色。底部から、あまり開かず立ち上 がる。	底部の切り離しは不明である。内面 はナデ調整。外面はナデ調整。胎土は 精造され細かな砂粒を少含む。焼成は 良い。		
5	SD 1	土師器 环	— (2.0) — 6.0	内面は浅黄褐色。外面は浅黄褐色。底 部は円錐状高台で底裏はやや上げ放 きである。	内面はナデ調整。外面はナデ調整。 胎土は稍粗。焼成は良い。		
6	SD 1	土師器 环	10.4 3.5 — 6.0	内面は褐色。外面は褐色。体部は内 身ぎみに立ち上がり、上部部で少し 外反する。底部はヘラ切り端、底部 輪を調整する。	底部は回転ヘラ切りである。内面は ナデ調整。外面はナデ調整。胎土は精 造。焼成は良い。		
7	SD 1	須恵器 碗	— (2.1) — 6.6	内面は灰色。外面は灰色。断面は灰 色。内面高台である。	底部は回転式切りである。内面はナ デ調整。外面はナデ調整。胎土は精 造。焼成はあまり良くない。		焼成段階で 黒化。
8	SD 1-2	土師器 碗	12.4 6.3 — —	内面はにぶい橙。外面はにぶい橙。 底部はやや丸味に近い平底で、体部 は丸味を持って立ち上がる。	内面はヘラ削り・ハケ調整のうえナ デ調整。外面は細かいハケ調整。胎 土は細かな砂粒が多い。焼成は良い。		
9	SD 1-1	土師器 高环	16.0 (4.9) — —	内面は褐色。外面は浅褐色。环底部 で内窓し、わずかに棱線を有し、立 ち上がり、「口縁部は外反し、開く」。	内面はナデ調整。外面はナデ調整。 胎土は砂粒を少含む。焼成は良い。		
10	SD 1-3	七輪器 高环	— (7.0) — —	内面は褐色。外面は褐色。环部は外 反ぎみに大きく開く。棱線をわずかに 残す。	内面は、外面は一部ハケ調整とナデ 調整。底部はナデ調整。胎土はやや 大きめの砂粒を含む。焼成は良い。		
11	SD 1-3 と1-4間	土師器 高环	19.8 13.3 — 11.6	内面は褐色。外面は褐色。环部は外 反ぎみに大きく開く。棱線をわずかに 残す。脚部は、柱下部はふくらみ をもち、その部分はベタ状になる。	脚部下部内面はハケ高窓。环部は、 外面は一部ハケ調整とナデ調整。脚 部はナデ調整。胎土はやや大きめの 砂粒を含む。焼成は良い。		
12	SD 1-3 と1-4間	土師器 壺	— — (23.6) —	内面は褐色。外面は明黄褐色。脚部 の上部から、肩部への部分で、壁面 が強く張る。器内は全体に厚めで、 5mm~10mmである。品定的にかがりが ある。	内面はヘラ調整・ナデ調整。外面は ハケ調整・ナデ調整。胎土は大粒の 砂粒を含む。焼成は良い。		
13	SD 1	須恵器 壺	— (21.7) — —	内面はにぶい黄褐色。外面はにぶい 黄褐色。頭部部に扁平な胎土層を 2条添付し、その上に浮文を添付。上 部部に4箇の筋状の擦文を施し、頭部 直縁文部の下に中広い桔口部を添付 しヘラ状原体で継かく削み、更に1~ 3条の沈挫文を施している。	外部はナデ調整。内部はナデ調整。 胎土は大粒の砂粒を多く含む。焼成は 良い。		

番号	造形番号	器種	口径 高さ 底径 (cm)	形態・文様	手法	備考
14		土製鉢	全長 全幅 全厚 孔径 重量	3.9 1.2 2.0 0.7 12.5g	内面は灰白色。外面は灰白色。筒形の土塊。	粘土は精選。焼成はあまり良くない。
15		小杉茶碗	— (2.5) — 3.6	内面は灰白色。外面は灰白色。小ぶりの碗で、底基を直線的に削り、高台を行す。底裏以外に灰釉がかかっている。	粘土は、半磁器である。焼成は良い。	
16		輪軸筒碗	12.0 (2.5) —	内面は褐色。外面は褐色。内面・外面ともに施のある褐色の釉がかかっている。	粘土は、半磁器である。焼成は良い。	
17		香炉	13.0 13.0 —	内面は灰白色。外面はオリーブ色。外面上に輪軸がかかる。内面は滑潤。	粘土は精選。焼成は良い。	
18		柴付碗	12.0 (2.2) —	内面は明緑灰色。外面は明緑灰色。口縁部内面に二本の輪縄。	粘土は、半磁器である。焼成は良い。	
19		柴付碗	10.0 (4.9) —	内面は灰白色。外面は灰白色。外面上に草と葉の文様、見込み内に輪縄。	粘土は精選。焼成は良い。	
20		铁輪碗	(3.0) — 7.0	内面は灰白色。外面は灰白色。丸輪で、全面に灰色の釉がかかり、外面上に黒色の絵付け。	粘土は精選。焼成は良い。	
21		柴付碗	(4.3) —	内面は灰白色。外面は灰白色。外面上に草花文。	粘土は精選。焼成は良い。	
22		鐵輪系碗	13.0 (2.5) —	内面は褐色。外面は褐色。内外面に褐色の輪縄。	粘土は精選。焼成は良い。	
23		鐵輪碗	12.2 4.4 — 4.8	内面は黒褐色。外面は墨褐色。見込みは蛇の目輪ひび。	粘土は精選。焼成は良い。	
24		紅皿	5.0 1.4 — 1.8	内面は明緑灰色。外面は明緑灰色。外面上に放射状の文様。	粘土は精選。焼成は良い。	
25		腰前模跡	35.0 (6.0) —	内面は灰褐色。外面は灰褐色。口縁部は段状に肥がする。内面には巾広の輪縄。	粘土は砂粒を多く含む。焼成は良い。	
26	SD 1 (試掘時)	土師器 环	13.3 4.4 — 6.0	内面は深褐色。外面は褐色。底部から外縁までに立ち上がり、さらに、口縁部近くで外反する。	底盤は圓柱余切りである。内面はナデ調査、外面はろくろ口を残している。粘土は精選。焼成は良い。	
27	SD 1 (試掘時)	土師器 蓋	— (26.6) —	内面は褐色。外面は褐色。丸底で、ほぼ球状の形態。全体に器内は薄く、2mm~2mmである。	内面は、ヘラ削りのうえに、ナデ調査。外面は、全面裡かいいヶ調整で、一部ナデ調査。粘土は、細かな砂粒を含む。焼成は良い。	



第20図 出土遺物実測図



第21図 出土遺物実測図

写 真 図 版



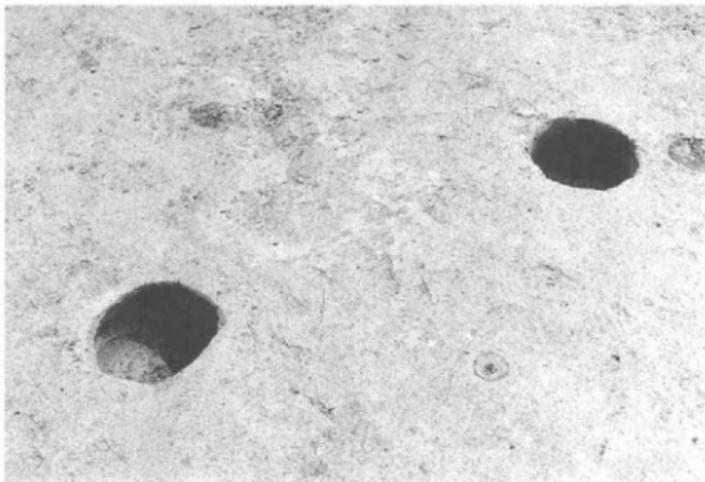
調査前全景（南東より）



調査前全景と雀ヶ森城跡（南より）



TR2 完掘状況（南西より）



TR1 完掘状況



TR7 検出状況



TR6 検出状況



遺物出土状況（11、SD1-3～4間）



遺物出土状況（6、SD1-2）



遺物出土狀況 (6、SD-1)



遺物出土狀況 (10、SD1-3)



土層断面 SD-1、A-B



土層断面 SD-1、E-F



SD1とSD1-1～SD1-4（西より）



SD1 北岸（南より）



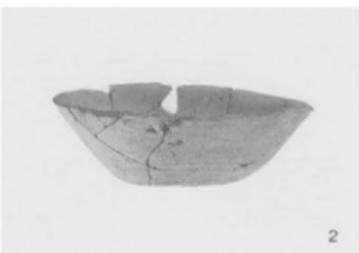
調査区A区全景（東より）



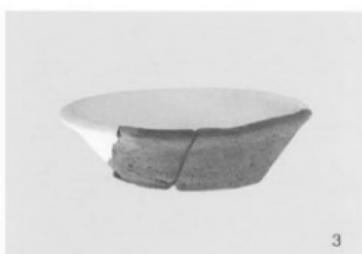
SD1（北西より）



1



2



3



4



5



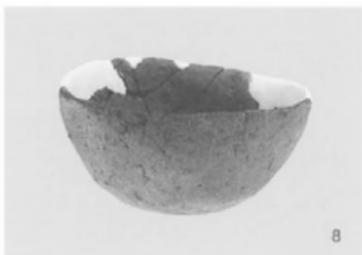
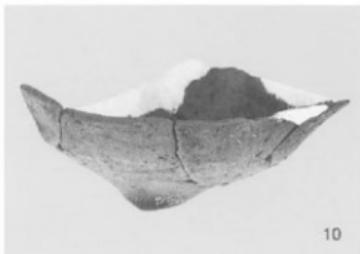
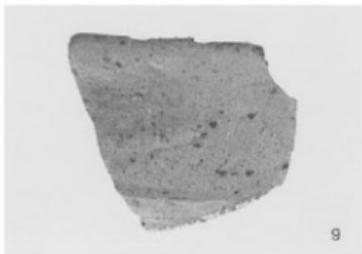
6



7

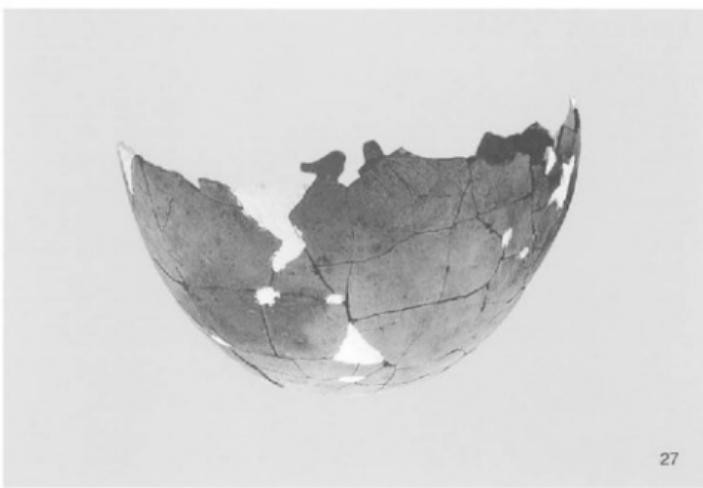


26



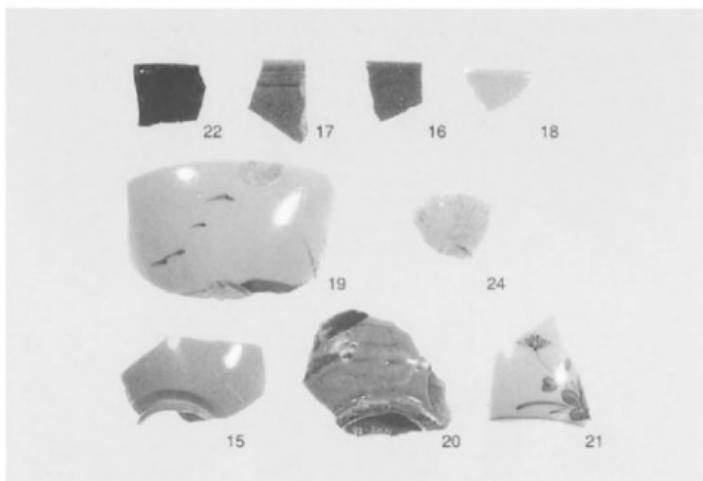


13

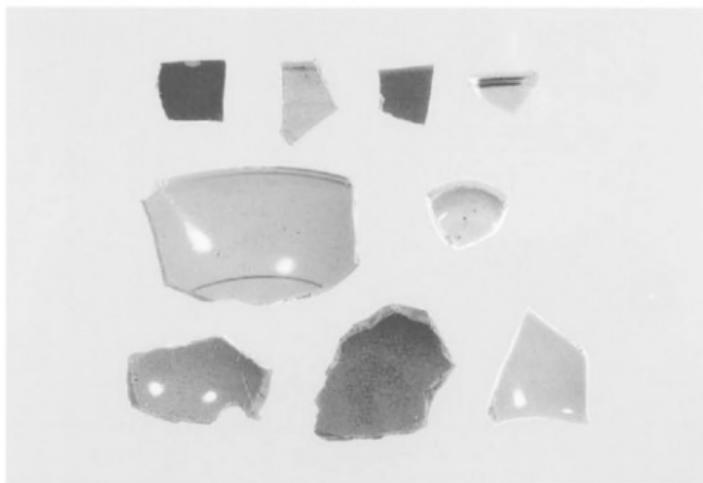


27

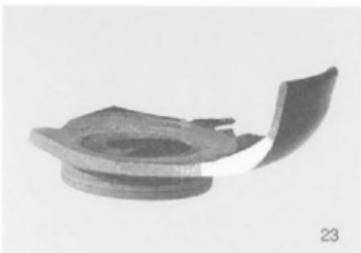
SD1 出土遺物



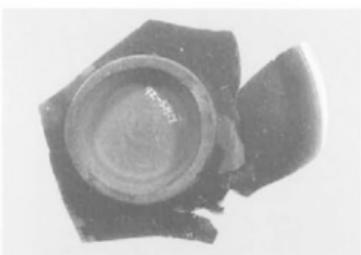
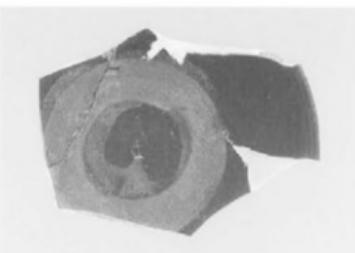
出土遺物・陶磁器（外面）



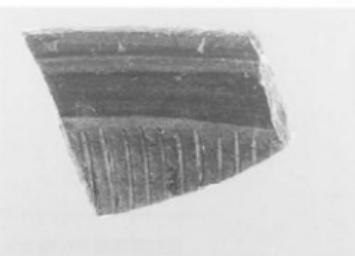
同上（内面）



23



14



25

出土遺物

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第12集

南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書

特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1993・3

発 行 高知県文化財团埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉1437-1

TEL 0888-64-0671

印 刷 有限会社 飛 鳥

高知市針木東町21-18

TEL 0888-44-6022